第５９回　熊本県保育研究大会　玉名大会　　　　　　　　　参加者：　　８０名

第１分科会　テーマ：子どもの発達と環境（３歳未満児）

　近年、子ども家庭福祉を取りまく国の動向が大きく動く一方で、子どもと家庭の置かれている環境も多様化している。保育所を利用する子どもの保育についても、一人ひとりの状況やニーズをふまえた個別の対応がより重要になってきている。本分科会は、「養護と教育」を一体化に提供する保育所保育の特性を生かした「子どもの発達保障」に関する実践・研究を通して協議を行う。

座長：鬼塚　ルミ子（佐伊津保育所）

助言者：山口　昌澄（中九州短期大学　教授）

意見発表者：川本　あゆみ（嘉島保育園）、高野　文恵（加茂川保育園）、詫間　裕子（山本保育園）

幹事：安田　ますみ（大野保育所）

記録：松村　千恵（滑石保育所）、吉村　友利（玉名第一保育所）

２．発表者　高野　文恵

テーマ：運動遊びと自然との触れ合いの中で

～生きる力を養うためにできること～

〈考察〉

子ども達の現状を踏まえた環境の工夫（空間配置、人的物的環境整備等）が育ちに、どのように影響するかについて考察する。

　子どものちょっとした興味や関心を「意欲」に変えられるような遊具の設定や、一人ひとりの発達を理解した上での適切な言葉かけにより、自信を深め挑戦しようとする子どもの姿が見られるようになった。また自然とのふれあいを持つことで、遊びを自ら考えたり、友達とごっこ遊びを楽しむなど仲間関係も深まった。これからも乳児期にふさわしい経験を積み重ね、「生きる力の基礎」を培うことができるよう遊び環境の改善に努めていきたい。

〈助言内容〉

　発達とは地層のように積み重なってできるものだということがよくわかる発表だった。

子どもたちは何事も憧れの存在の模倣から始まるが、憧れの存在とただ一緒にいれば良いという訳ではなく、子どもと子どもをつなげる保育士の存在が重要である。その保育士が反省点を挙げながら子どもと共に成長していく様子がわかった。

５．まとめ・その他

物理的環境ももちろんだが、やはり人的環境が重要である。それは子どもにとって絆であり、居場所であり、そういう環境の在り方が良い感性を育てる。保育士は手を出しすぎず、指示は極力せず、環境を整えることでさりげなく子どもをサポートする、絶妙な立ち位置が望まれる。

４．グループ討議

〈協議の柱〉

自然や地域との交流について取り組んでいること

〈討議のまとめ〉

・自然体験学習・草スキー・潮干狩り・田植え・稲刈り・小動物の飼育等

・マクドナルド（お仕事体験）・園で育てた野菜を使った福祉弁当を地域に配る・社会見学をする（郵便局、商店街、お寺など）・老人ホーム訪問等

園や地域の状況に応じて、様々な取り組みが行われているが、場所によってはなかなか自然とのふれあいができない園もあったり、地域の方との関わりが年々希薄になっている様子がうかがわれた。また行事が多くなかなか自然活動の時間が持てないなどの問題点も挙げられた。

３．発表者　詫間　裕子

テーマ：２歳児の発達と環境

～わんぱく　パクパク　やまもとっこ～

〈考察〉

子どもの育ちについて、そして育ちを促す環境づくりの可能性について検討した。

「菜園活動」「洗濯遊び」「地域の方とのふれあい」の活動から子どもたちの求める遊びを察知し、どんな遊びをさせたいのか、どんなものに触れさせたいのかを配慮した環境づくりの重要性、また周辺の地域環境を活かした保育の面白さを感じた。

子どもの「～がやりたい」という思いをしっかり受け止めていき、保育士が心のゆとりを持ち、子どものあるがままを受け止めることが大切である。これからも一人一人が楽しく過ごせるように、保育者として支えていきたい。

〈助言〉

　きゅうりの栽培、収穫やカタツムリの飼育など体験と保育がつながった瞬間が見えた発表だった。地域との交流もイベント的ではなく、外へ出かけていきそこで出会った人たちと交流している。そういう交流の在り方がもっとあってもいいのではないかと思う。

1. 発表者　川本　あゆみ

テーマ：家庭との連携によるトイレトレーニングの成果について

〈考察〉

子どもの排泄自立に関する保育園での取り組みと、家庭との連携、保護者支援の可能性について検討する。

　排泄間隔についての記録、職員間の共通理解、成功体験、壁面などの物的環境整備、さらに保護者へのアンケート調査により各家庭のトレーニング状況を共有するなど、家庭との連携も強まった。子ども一人ひとりに応じた言葉かけを行い、寄り添いながらトレーニングを進め、成功体験を多く持たせることができた。それによって自信へと繋げられたかと思う。

　今後も保護者との連携を密にし、信頼関係を深め、子どもの成長を喜び、支えていく存在になれるよう努めたい。

〈助言内容〉

アンケートをとるなどニーズのつかみ方が良い。

保護者と保育園とが協力して成し遂げる関係ができていた。

排泄は子どもが初めて自分の力をコントロールして行う作業である。成功するかしないかではなく、一人ひとりのペースに合わせた働きかけが重要である。